

河川基金助成事業
「鬼怒川・小貝川かわまちづくりを
効果的に地域振興に活かす活動」

成果報告書

助成番号 2019-6112-020

かわまちづくり常総・下妻活性化協議会

令和2年4月

1. 活動の目的

1. 1はじめに・鬼怒川プロジェクトとかわまちづくり

鬼怒川下流部沿川は、平成 27 年に発生した関東・東北豪雨災害において大きな被害を受けた。特に破堤災害となった常総市の被害は甚大であり、市民の鬼怒川への負のイメージは強く大きなものだった。鬼怒川プロジェクトによる復旧工事が始まって、なかなかそのイメージは払しょく出来ず、そのような中で「鬼怒川プロジェクトプラスワン」として「鬼怒川・小貝川かわまちづくり事業」が計画された。

この事業は、復旧される鬼怒川堤防をサイクリングロードとして活用するもので、整備される堤防の天端や高水敷に造成される管理用道路・工事用道路を活用したサイクリングロード（河川管理用通路と兼用）と堤防沿いに小規模公園の様な休憩所「リバースポット」の整備を行うものである。なお、従来からサイクリングの利用が多かった小貝川にも高水敷サイクリングロードやリバースポットの整備が行なわれる。

この事業能力中で我々自治体は、リバースポットの公園整備（施設整備）や川とまちを繋いで交流を促すハードとソフトの整備を行うこととなっている。

なお、かわまちづくり事業は平成 29 年 3 月に常総市と下妻市が河川管理者とともに開始したが、その後平成 31 年 3 月には、鬼怒川プロジェクトに参画する 7 自治体すべての自治体が参画することとなった。（下流から守谷市・つくばみらい市・常総市・下妻市・八千代町・結城市・筑西市）（図-1 参照）



1-2 かわまちづくりが地域振興に効果的な事業となるための活動

しかし、自治体がまちづくりに積極的に活かす取り組みや工夫を行わなければ、かわまちづくり事業は、単なる川づくりに終わってしまう場合がある。かわまちづくりは、自治体を中心とする沿川地域が、川を有効に活用しようとする工夫と努力があってこそ、川とまちを結ぶ効果的なコミュニティが造れる事業と考えるべきである。

また、鬼怒川堤防のサイクリングロード化は、エリア内の全自治体参画により、下流守

谷市から上流は筑西市まで接続される計画となっている。しかし、堤防天端をサイクリングロードとして使うには自治体の河川占有が必要であり、自治体には管理の負担を伴う。また、参画全自治体がサイクリングロードの価値観を共有し、生活用道路等による堤防利用を制限していかなければ、長い区間の接続が出来ないことになる。サイクリングロードは、ある程度の延長を持たないと魅力が減ってしまうため、全区間の接続を目指すことが必要となる。

この様な状況で堤防整備及びかわまちづくり事業が先行する常総市及と下妻市（本年度は主に常総市）において、地域振興に有効な取り組みを検討し、先行して様々な取り組みの試行を行い、効果等を評価し、得られた知見を関係自治体で共有することが、サイクリングロードの価値観共有と連携した地域活性化繋がるものとする。

このため、常総市と下妻市において（本年度は常総市が中心となる）、かわまちづくりが地域活性化・地域振興に効果的な事業となるための活動を行うものである。

2. 活動の目標

2-1 活動項目の設定

地域振興に有効な取り組みについて、項目ごとに目標を設定することとした。この項目出では常総市で計画している策定を進めている「自転車活用推進計画」と関連性を持たせており、以下の項目とすることとした。

- ① 河川に訪れたサイクリストを沿川の街へ誘う取組（かわとまちを繋ぐ取組）
- ② 訪れるサイクリストと住民との軋轢を避けるためのルール・マナーの取組
- ③（交流拡大以外に）サイクリングロードを市民に積極的に活用してもらう取組
- ④ 交流拡大に資する広報の取組（広報イベント動を含む）

2-2 活動の目標と取組内容

活動項目ごとの目標と取組内容は以下のとおり

① 「河川に訪れたサイクリストを沿川の街へ誘う取組」について

サイクリストが川に訪れても、街へ立ち寄ってくれなければ地域活性化へ繋がらない。また、受け入れる街側でもサイクリストを歓迎する姿勢も作っていきたいと考えた。このため、サイクリストが立ち寄りやすい環境づくりをすることで、かわとまちを繋ぐ取組目標に対応することとした。

実施する取組としては、サイクリストが街の飲食店等に立ち寄りやすくする「サイクルスタンド」の設置を考案し、河川改修工事を実施する下館河川事務所に相談した。スポーツタイプの自転車には、スタンドが付いていない（付いていない）場合が多く、自転車の停車に苦慮するが多いということを知ったためである。

下館河川事務所（出張所）では、これを快諾して頂き、工事請負業者と相談した結果、工事地内の伐採木や余材を用いた様々な試作品が出来上がり、寄贈いただくこととなった。（写真-1）

自治体では、これを観光物産協会に照会し、飲食店等への試行設置を呼び掛けた。これにあたって、サイクルスタンドを設置している個所の目印として、登旗を造り、スタンドとセットで貸し出すものと



写真-1 寄贈されたサイクルスタンド

した。(この登旗の制作に基金を活用している)

また、サイクリングロードと、このサイクルスタンドの位置情報を既存観光アプリソフトを活用して地図情報で提供する取組みを行うこととした。

②「サイクリストと住民との軋轢を避けるためのルール・マナー検討」について

サイクリングロードの整備にあたり懸念されたのは、訪れるサイクリストと地元住民の歩行者との間に軋轢が生じることであった。都市部の河川サイクリングロードで近年、歩行者とサイクリストとの間で発生したトラブルを聞いており、また、近年は、自転車と歩行者間の重大接触事故も発生している状況もある。

また、河川サイクリングロードは、一般道の自転車走行環境と異なり自転車歩行者専用道路となる。これらを踏まえたルールとマナーを検討していく必要がある。なお、鬼怒川サイクリングロードは前述の通り7市町と河川管理者が協同で実施していく事業であり、一自治体が先行してルール・マナーを策定することも困難である。

しかし、鬼怒川プロジェクトによる堤防整備が先行する常総市区間においては、工事が完了した一定区間でサイクリングロードを先行で一般に供用を開始する区間があるため、先行して試行的取組みを実施することとした。

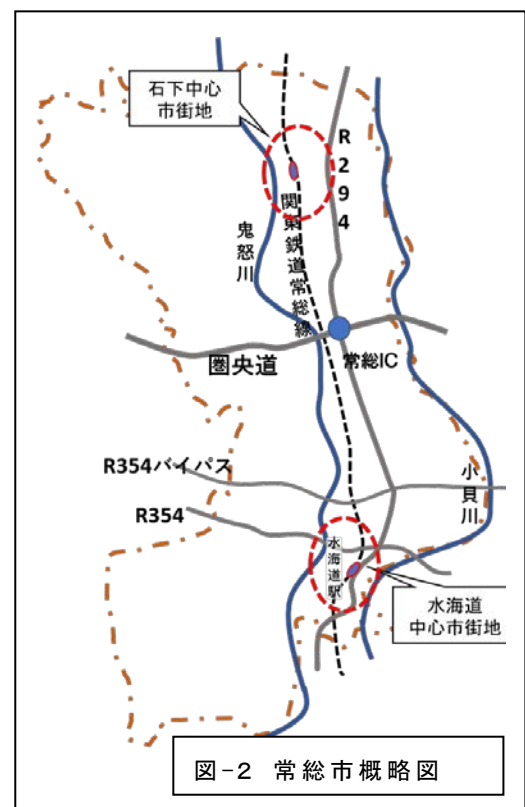
自転車走行のルールとマナーを検討するにあたっては「自転車利用5則」が既に活用されており、先述の河川堤防上の自転車歩行者専用道路という特異性から、独自のルールとマナーに相当する部分の追加提案を検討し、試行することとした。

取組みとしては、サイクリストへの呼びかけ看板を考案し、供用開始箇所サイクリングロードに試行的に設置していくこととした。

③サイクリングロードを市民に積極的に活用してもらう取組み

常総市で策定中の「自転車活用推進計画」の中でも、河川サイクリングロードの市民活用を想定している。これは、常総市合併元の水海道市・石下町の中心市街地がともに鬼怒川に接していることから、鬼怒川堤防がサイクリングロードとなれば二つの中心市街地が新たに結ばれることとなり、通勤・通学等の日常生活での市民活用が想定されるからである。(図-2参照)

なお、常総市には「常総市健康増進計画」があり、この中で市民の自転車通勤等による健康促進も奨励している。



④ イベントを含む広報の取組み

茨城県内では、「つくば霞ヶ浦リンリンロード」は有名だが、新たに誕生する鬼怒川サイクリングロードは全く無名な状況である。また、前述のようにかわまちづくり参画自治体をはじめとする地域内外に活動情報を届ける必要もある。このための情報発信が重要となる。

- ・プロモーションビデオによる発信（HPによる情報発信）
開通するサイクリングロードのPRビデオを作成し、常総市のホームページにアップすることにした。
- ・オープニングイベントの実施。イベントによりサイクリングロードの誕生をアピールすることにした。
- ・サイクリングロード及びサイクルスタンドの位置情報等を提供し、サイクリングの利便性を向上させることにした。

3. 取組みの実施状況

取組みは当初の予定通り実施できたものと、実施できなかったものがある。理由はサイクリングロード整備の進捗が予定通りでなかったことや、既存ソフトの改良が予定通りにできなかったものなどだが、逆に当初想定していなかった大きな成果を得られたものや活動に広がりを見せたものもあった。項目別には以下の通り。

3-1 「河川に訪れたサイクリストを沿川の街へ誘う取組」

河川工事によるサイクルスタンド寄贈が分割になったこともあり、観光物産協会を通じたスタンド配布も順次となったが、2020年度中に18箇所を設置することができた。当初は、飲食店やサイクリング補給食となりえる食べ物を売る店舗を想定していたが、

寺社や市営の(研修)宿泊施設からの設置希望もあった。設置店舗等は表のとおり。

1	JOZO【野村醸造】	造り酒屋・レストラン	常総市本石下
2	パンデカーザ	パン販売	常総市豊岡町丁乙
3	山中酒造店	造り酒屋	常総市新石下
4	お煎餅 いおり庵	せんべい販売	常総市水海道宝町
5	元三大師 安楽寺	寺社	常総市大輪町
6	水海道R2カフェ	カフェレストラン	常総市水海道宝町
7	常総やきそば	ファーストフード	常総市新石下
8	ゆたかや製菓	和菓子(団子)屋	常総市本石下
9	一言主神社	寺社	常総市大塚戸町
10	あすなろの里	宿泊・研修施設	常総市大塚戸町
11	つくばビューホテル	ホテル	常総市本石下
12	コロッケやフルヤ	ファーストフード	常総市豊岡町乙
13	石塚糰店	みそ・麴・甘酒販売	常総市原宿
14	弘経寺	寺社	常総市豊岡町甲
15	クロサワ	ファーストフード	常総市本石下西原
16	春子屋	和菓子(団子)屋	常総市本石下
17	岡野商店	食品販売	常総市川崎町甲
18	かうひいや珈和	カフェ	常総市水海道森下町

これらの店舗等には、基金により作成した登旗とともにサイクルスタンドを設置した。

サイクルスタンドの設置とともに合わせて計画していた位置情報提供については、既存観光アプリ「ふらっと294」における改良を予定していたが、こちらの方は複数自治体参加による協働作成であったことにより改良が困難となったことから、見送ることとなった。なお、これについては別途予算により、サイクリングロードマップを作成し、その中で位置を案内することとした。



写真-2 サイクルスタンド設置状況

3-2 「サイクリストと住民との軋轢を避けるためのルール・マナー検討」

サイクリングロードに呼び掛け看板を掲示してサイクリストにマナー向上をよび掛けること、住民に安心感を持ってもらうことを目的に看板上を考案した。(図-3)

看板下は「自転車は音もなく後ろから近付いてきて怖い・危ない」という声を受けて、人は右、自転車は左という道交法上の既存ルールを再周知することで、自転車と歩行者がお互いを目視認識しながらすれ違うことが出来るように考えたもの。

看板の記載内容については、かわまちづくり7市町協議会の事務局を担う下館河川事務所を通じて各市町へ照会し、意見聞取りの上で試行的に設置している。今のところ特に苦情、対立意見等は届いていない。今後は、自転車利用5則の普及と併せて、河川堤防で必要となるルールとマナーを検討していきたい。

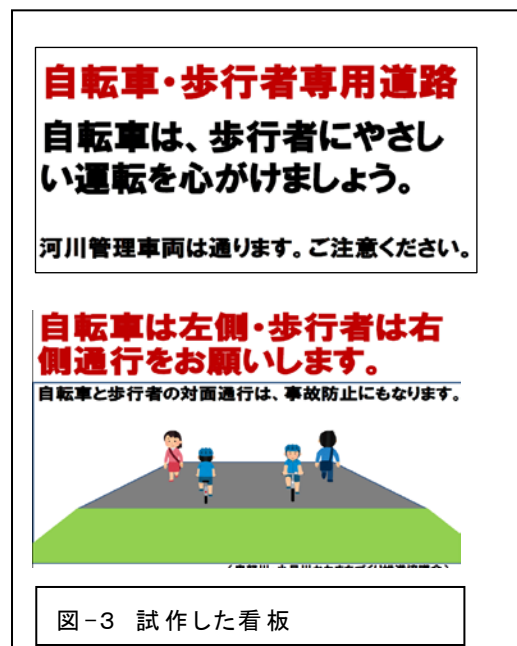


図-3 試作した看板

3-3 サイクリングロードを市民に積極的に活用してもらう取組み

当初は、市役所職員に自転車通勤を奨励することを足がかりに、市民への利活用を広げていくことなどを想定していたが、鬼怒川サイクリングロードの中央部である美妻橋地点での接続が遅れたため、石下・水海道中心市街地の接続がアピールしにくく、迂回路の設定もしにくいため、活動しにくい状況となっている。この区間は、2020年の夏を目途に開通出来る旨の連絡を受けており、接続後に取組みが出来るように準備している。

3-4 イベントを含む広報の取組み

広報の取組みは、本活動の中心的なものとなった。この取組みの中では、当初予定していなかった多様な組織との連携を実現できたことが大きな成果となった。

①プロモーションビデオによる発信
ホームページを通じてサイクリングロードの開通をPRするためにプロモーションビデオの作成を試みた。

幸い常総市には「観光大使・千姫三人娘」がおり、安価な日当で協力してもらえるため、出演してもらうこととした。

撮影をドローンで行うことで鬼怒川サイクリングロードのロケーションの魅力も伝えることが出来た。撮影から編集、ホームページへのアップまで市の職員直営で実施できたため、費用は観光大使の日当のみとなっている。ただし、これには、アップ後すぐに視聴者からお叱りを頂いた。「3人で並走するとはなにごとだ！」というものである。対応として、直ちに供用開始前での撮影であること、実際には並走をしない呼びかけをテロップにより追加した。

ルールとマナーの扱いの難しさ、多くの人が見る広報では油断ができないことを改めて確認することとなった。

②オープニングイベント開催

鬼怒川サイクリングロード誕生（部分供用開始）を地域内外にアピールするため、9月にオープニングイベント「鬼怒川サイクルフェスタ2019」を河川管理者と共同で開催することになりました。このイベントでは、常総市区間の堤防が概ね繋がったことも併せてアピールする意味合いもありました。サイクリングにより完成した堤防を長い延長に渡り直接見てもらう（走ってもらう）ことで、安全になった常総市区間の鬼怒川をアピールすることができると考えたのです。

実施内容は、常総市内の鬼怒川堤防の完成区間と小貝川堤防を結ぶ約40kmのコースを作りサイクルスタンプラリーを行うこととしました。長い路線の中で、交差点部、チェックポイント等要所に掲示するため、必要枚数が増え、広報関係費用の中で最も予算がかかることになってしまった。

ただし、このイベントは参加者の多くから好評の声を頂き、また、多様な組織との連携を実現することとなった。以下の通り。

・河川管理者との連携

河川管理者である国土交通省と連携し



図-4 市役所 HP トップページ

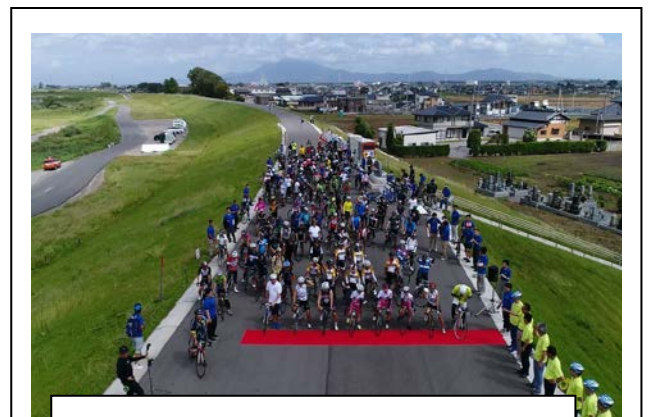


写真-3 破堤地点堤防上でのセレモニー

てコース途中のH27年破堤地点でのセレモニー（リスタート）を行った。

（写真-3） コース途中にいったん集合してのリスタートということで参加者がどの程度協力してくれるかに不安があったが「開通セレモニーを体験できて良かった」等、参加者には好評だった。なお、関係者には、破堤地点でのスタートセレモニーに感慨深い思いもあった。

・多様な協力団体の参加

スポーツウエアメーカー「オンヨネ」は、イベントに対して早期から協力を表明してくれたため、イベントの開催・運営にあたっての相談から参加賞の提供までご協力を頂いた。

地元で鬼怒川プロジェクトの河川工事に参加してきた建設会社に仮設トイレを貸していただいた。堤防を結ぶ長いコース上では、トイレの不足が問題になるところであった。また、予算的にも大変に助かった。

コカ・コーラボトラーズ茨木支社が無料給水所を設けて頂いた。このようなイベントにおいて、見慣れたスポンサーの旗が立ち並ぶことが盛り上がり大きく貢献することを実感した。

日本競輪選手会が水海道ロータリークラブとともに参加し、競輪選手の派遣とブースを設置して頂いた。常総市では、これまでも選手会との交流があり、平成27年水害時も市民を励ましていただいている。今回もイベント実施をお知らせすると「何かお手伝いしたい」というお話を頂き、現役選手が先導で走るというアイデアでイベントを盛り上げて頂いた。



写真-4 先導の女子競輪選手

・地元「関東鉄道」との連携

関東鉄道（常総線）との連携は、かわまちづくりの事業の課題となっていた。以前から「サイクルトレイン」という自転車を軌道車に積み込める取組みがあったものの、車両一両に積み込める台数に制限（大抵一両で走っている）があることから、関東鉄道でも大き

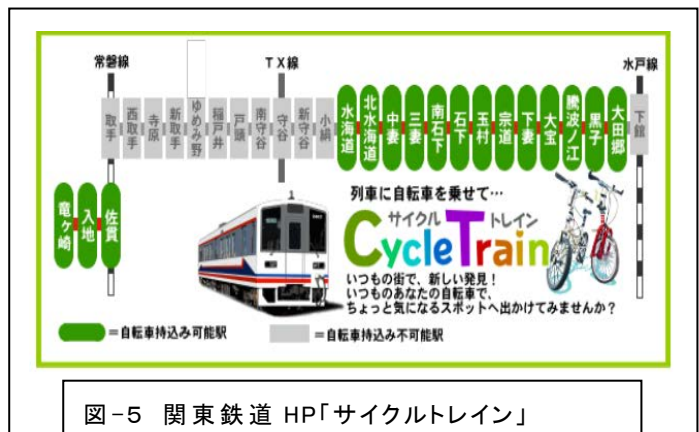


図-5 関東鉄道 HP「サイクルトレイン」

くアピール出来ていない実情もあった。

イベントでは、関東鉄道に特別列車を出してもらい、復路に電車を使うことで往路自転車、復路電車という片道約10kmのファミリーコースを作ることが出来た。

家族連れからは、「自転車をそのままホームから電車に積み込む体験は新鮮」など好評な意見が得られた。

今後もサイクリングロードと関東鉄道の連携を模索していきたい。



写真-5 車内の様子

4. 成果と目標達成度

4-1 「河川に訪れたサイクリストを沿川の街へ誘う取組」

当初予定していたサイクルスタンドの店舗等への設置は、初年度としては数多く達成できたと考えるが、位置情報表示が達成できなかった。このため、別途予算により進めているサイクリングロードマップ中にスタンド設置箇所を示すこととした。この情報は、QRコードで紙媒体のサイクリングロードマップとホームページ上のコーナーを連携させ、発展性も持たせる等、今後も工夫していく予定。

サイクルスタンドの設置を含む本取り組みは、7市町協議会に報告しているが、沿川自治体でも既に取り入れる動きが出ている。

4-2 「サイクリストと住民との軋轢を避けるためのルール・マナー検討」

ルール・マナーの検討は、かわまちづくり7市町協議会でも議論は始まったばかりであるが、常総市の取組みは、協議会において具体的な取組みについて提案し、試行取組み状況を照会出来たことが成果である。既存の「自転車利用5則」がある中で、サイクリングロード（自転車歩行者専用道路）の特殊性に配慮する必要があるため難しいが、引き続き常総市区間での試行は継続し、協議会に報告・反映させていくものとしたい。

4-3 サイクリングロードを市民に積極的に活用してもらう取組み

常総市サイクリングロードの中央部美妻橋付近のサイクリングロード接続は、2020年の夏を目途に開通出来る旨の連絡を受けているため、その接続後に市民に積極的に活用してもらう取組みが出来るように準備している。なお、イベントの際には、迂回路設定により対応したが、長い距離を要する迂回は、日常的な市民活用では不便なものとなる。

予定している取組みは、市民に積極的に通勤・通学に活用してもらうもので、このためには、市役所職員に自転車通勤の励行を進めることを予定している。環境問題と健康増進をテーマに進めることも想定している。

4-4 イベントを含む広報の取り組み

広報の取り組みについては、活動全体の中で予算的にも労力的にも最もウェイトを置く活動となり、また、最も成果の得られた活動となった。

・プロモーションビデオ（PV）

PVを市役所のホームページに掲載することを契機に、市役所のホームページのサイクリングロードのコーナーを充実させることとなった。また、PV作成の中で、観光大使の活用や市役所職員による簡易なビデオ撮影等、今後の広報活動の広がりを期待できることとなった。

・開通イベントの開催

開通イベントは、開催にあたって多くの市内外の団体と関係を持つことが出来たほか、警察署等の関係期間との連携関係を作ることが出来た。初めて取り組むイベントであったため、協力依頼範囲の広げ方に戸惑ったが、この取り組みは来年度も計画しており、来年度は区間を広げて常総市と下妻市及び八千代町の区間で実施したいと考えている。

また、イベントの事前告知について新聞報道の協力を得られたことがイベント自体の成功と新聞報道の成果にも繋がっている。イベント参加募集を開始して直ぐには応募者が少なく、イベント開催が危ぶまれたが、複数の新聞社がイベント開催告知の報道をしてくれた結果、募集定員に近い応募者を迎えることが出来た。また、報道では、地域における取り組み等も併せて報道して頂くこととなり、これも大きな成果となった。

このイベント内での他機関との連携も大きな成果となった。河川管理者と連携したイベント運営により、かわまちづくり関係自治体の首長参加によるセレモニーを実施できた。また、関東鉄道との連携は、今後のサイクリングロード延伸によりさらに効果を増していくものとする。鬼怒川と概ね並行している関東鉄道の位置関係は「疲れてしまったら関東鉄道に乗ればよい」という初心者への安心感となり、初心者への間口を広げることになると考えられるからである。

・その他の取組み「モニターツアー」等、観光業界との連携

観光業界との連携を模索して大手バス会社に相談に伺った。国際航業株式会社は、「サイバス」というサイクリングに特化したバスを保有しており、これは車体下部に自転車格納庫を持つ定員20名程度のバスであり、特許出願中とのことである。この国際興業と調整した結果、モニターツアー催行計画を進めることとなったが、定員募集直前で新型コロナウイルスによる発病防止の観点から催行は中止となってしまった。ただし、旅行会社のサイクリングツアーに詳しい専門家と協働で旅行計画を作成するという作業は、今後の地域振興活動へのヒントを多く得られる作業であった。

5. おわりに、成果を今後活かす

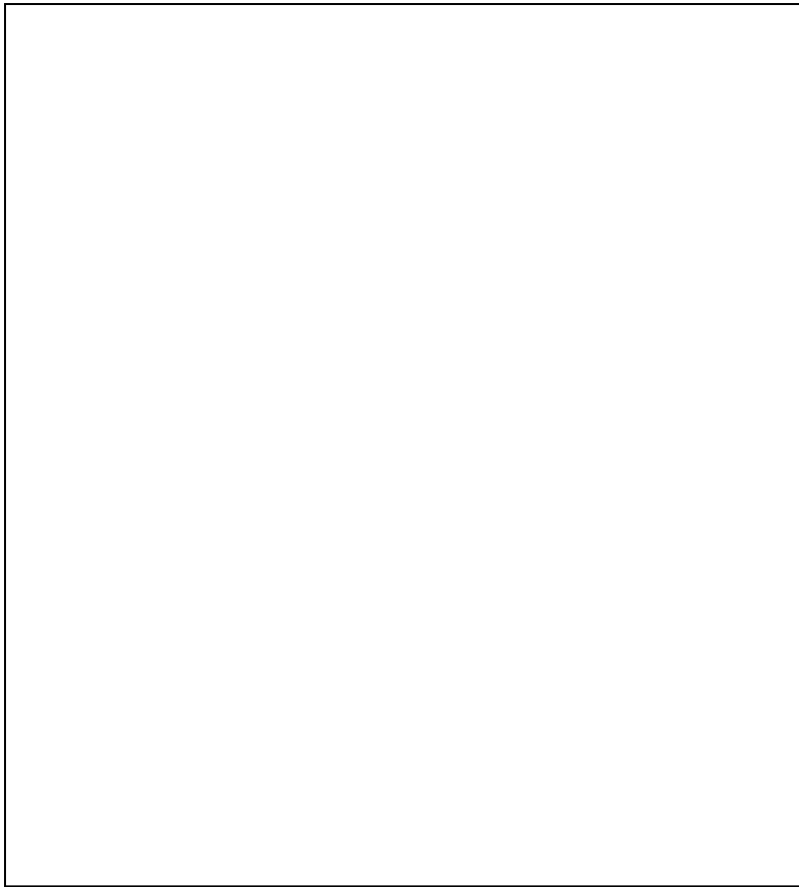
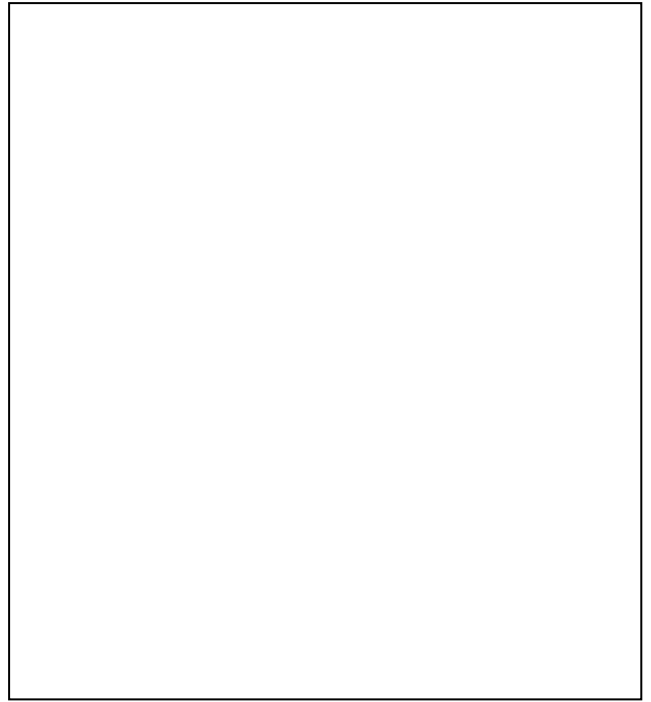
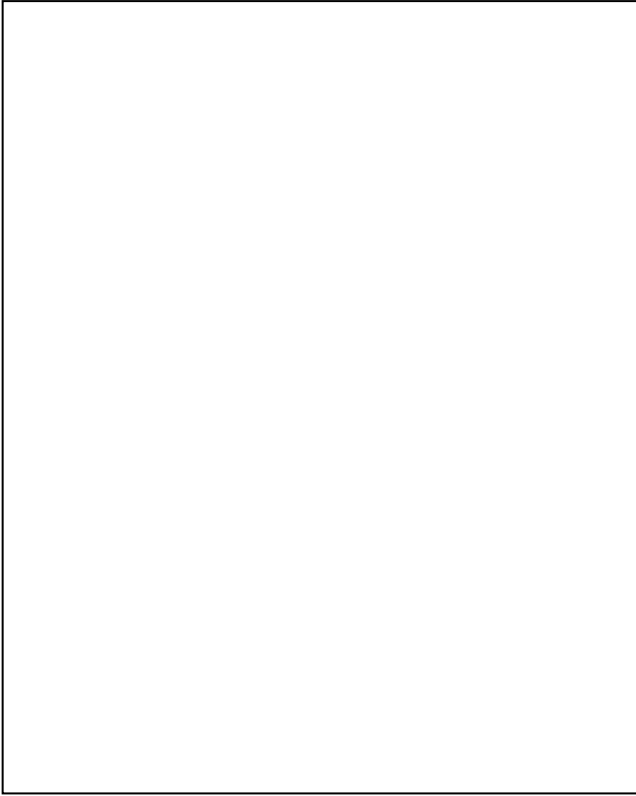
以上の活動状況については、同エリアの下妻市との情報共有をはじめとして、国土交通省下館河川事務所が事務局を務める「鬼怒川・小貝川かわまちづくり推進協議会」（7市町協議会）で報告するなど、地域内での情報共有に努めている。また、下妻市では、今年開催したサイクリングイベント「鬼怒川サイクルフェスタ2019」について、来年度下妻市をメイン会場として開催する計画としている。

このように、かわまちづくりを地域振興に活かす活動は、始まったばかりだが、様々

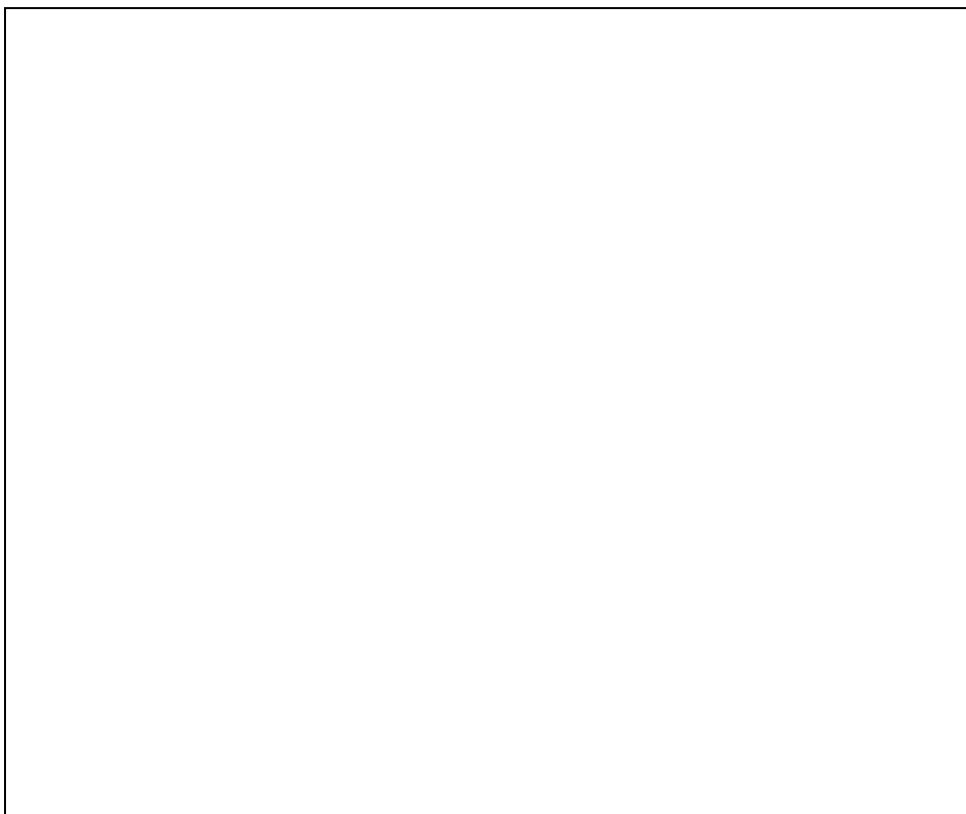
な取組みを検討・試行し、評価しつつ、河川管理者及び地域の自治体と情報を共有することは、取組みを広げるとともに、かわまちづくり（サイクリングロード）の価値観の共有につながり、地域活性化に役立っていくものと考えている。

新聞報道の状況

イベント前の告知を含む報道



イベント結果を含む報道



新聞報道では、イベントの実施案内とともに、サイクリングロード整備の背景や取り組み等を併せて紹介してもらえるとありがたい。

鬼怒川サイクルフェスタ2019

平成27年の水害以降整備されてきた鬼怒川堤防が、常総市区間で概ね繋がりました。その堤防は、自転車・歩行者専用道路として活用していきます。

堤防のお披露目と道路の開通を記念して、サイクルフェスタを実施します。



豊田城でイベント実施！
スタンプラリー参加者は、
プレゼント抽選会あり！

【日 時】令和元年9月23日(月・祝) 9時30分受付開始 10時開会

【コース】鬼怒川・小貝川堤防を結んだ40kmのコース
関東鉄道を利用した片道10km程度のファミリーコースの設定もあります。(臨時便発着時刻についてはホームページをご覧ください。)

【集合場所】常総市地域交流センター(豊田城) 駐車場

【申込期間】令和元年9月2日(月)から9月17日(火)まで(先着300名程度)

【申込方法】都市計画課窓口・FAX・メールにて申込みしてください。
申込用紙は窓口又はホームページよりダウンロードしてください。

【参加費用】一人500円(当日受付にて支払いください)
参加費には傷害保険代を含んでいます。

【詳細】スタンプラリー、プレゼント抽選会等のイベントを実施します。
詳細について決まり次第ホームページに情報を更新します。
参加規約及び注意事項を遵守していただきます。

主催 常総市 共催:国土交通省関東地方整備局下館河川事務所
協力 関東鉄道株式会社、オンヨネ株式会社、水海道ロータリークラブ
一般社団法人日本競輪選手協会茨城支部、常総市観光物産協会
※その他参加団体及び調整中の協力団体は、随時常総市ホームページで
ご紹介します。

このイベントは河川基金助成事業の助成を受けています。

お問い合わせ



鬼怒川サイクルフェスタ事務局(常総市都市計画課内)

〒303-8501 常総市水海道諏訪町3222-3

TEL: 0297-30-6202

FAX: 0297-23-2164

MAIL: cycle@city.joso.lg.jp

HomePage: <http://www.city.joso.lg.jp/soshiki/toshi/toshikeikaku/tok05/1566360902163.html>

🚴 **コース案内** 🚴

鬼怒川

チェックポイント1
復興の碑

鬼怒川

小貝川

START

GOAL

チェックポイント2
決壊の碑
国土交通省主催のイベントあり

アグリロード

チェックポイント7
川の一里塚

【 凡 例 】

- : 40 kmコース
- : ファミリーコース (10 kmコース)
- 📍 : チェックポイント
- : 順路

圏央道

チェックポイント3
美妻橋上流

美妻橋

チェックポイント6
吉野公園

チェックポイント5
福岡堰

豊水橋

チェックポイント4
八幡神社

国道354号

大和橋

メイン会場 豊田城
常総市新石下2010

常総市役所
石下庁舎

石下総合
福祉センター

駐車場

至下妻

至守谷

【 注意事項 】

- ・コースには、一般道区間が含まれます。通行にご注意ください。
- ・歩行者にやさしい運転をお願いします。
- ・自転車走行時は、並列運転を避け安全走行をお願いします。
- ・主催者側では給水所は設けませんので、飲料水は各自ご用意ください。
- ・参加者はヘルメットの着用が必要です。主催者側では用意しませんので保護具等は各自ご用意ください。
- ・レンタサイクルの用意はありません。

運営上の都合で、変更が生じる場合があります。参加規約に遵守し、係員の指示に従っていただきます。

活動状況報告

実施内容

交流人口の拡大の取組み支援・広報を含む
(広報イベント)「鬼怒川サイクルフェスタ2019」(1)

鬼怒川サイクリングロードは、令和元年度に常総市区間から開通して順次延伸していく予定であるため情報発信が重要。また、H27年水害以降実施されている鬼怒川プロジェクトにより常総市区間で堤防が繋がったお祝い・発信としてもイベントを行う必要もあった。

イベントは、常総市区間の鬼怒川と小貝川を結ぶ約40kmのスタンプラリーとして実施し、イベント全体の運営を常総市で行い、堤防上でのリスタートイベントの運営を国土交通省下館河川事務所が運営する形で連携して行った。

地元建設業者、スポーツウエアのメーカー等、民間企業や、ロータリークラブ、自転車競技選手会等多様な組織の協力・参画によりイベントを盛り上げる事が出来た。イベントを開催告知や実施結果を多くの新聞で報道していただくことで情報発信効果があった。



堤防上のリスタートイベントは、平成27年に破堤した上三坂地点で行われた。



常総市主催開会式の状況
現役競輪選手が先導を務めてくれた



堤防上を走る参加者

イベントカー、ステップ(取付階段)リース代、司会者、アシスタントの観光大使の人的費、スタンプラリー消耗品等に基金を活用したほか、登り旗の購入費に使用した。

活動状況報告

実施内容	交流人口の拡大の取組み支援・広報を含む (広報イベント)「鬼怒川サイクルフェスタ2019」(2)
------	---

多様な主体の参加協力状況



交通安全をアピールするために常総警察署長が自ら参加



日本競輪選手会茨城支部がロータリークラブと共同参加 写真は「自転車こぎ氷」



スポーツウェア「オンヨネ」は、イベント参加賞協賛品拠出等の協力



コカコーラボトラーズ茨城支社の協力によりコース中間点に「無料給水所」設置



地元建設会社「新井土木」「正栄工業」は、仮設トイレの設置で協力



地元建設会社「大阪建鋼」は、イベント会場にサイクルスタンドを製作、後日寄贈頂いた

活動状況報告

実施内容

交流人口の拡大の取組み支援・広報を含む
(広報イベント)「鬼怒川サイクルフェスタ2019」(4)

イベントにおける基金の活用



コース案内看板の製作費(印刷資材費のみ、作成は職員直営作業)



イベントカー・ステップレンタル及び司会者等人件費



広報ツールとして基金で作成したのぼり旗の活用

のぼり旗は、イベントをお知らせする広報効果とともにイベントを盛り上げる効果、またコースの導線案内効果がある。警察協議により導線案内をしっかりと行うことを指導されたことにより、予定よりも制作枚数を増やした。また、イベント当日、強風で破損した旗が多くあり、追加で作成している。(モニターツアーや今後のイベントでも使用予定)

活動状況報告

実施内容 | かわとまちを繋ぐ取り組み(飲食店等にサイクルスタンド設置)

河川サイクリングロードに訪れたサイクリストをまちへ誘う取り組みとして、サイクルスタンドを飲食店等へ貸し出す取り組みを進めている。

鬼怒川緊急対策プロジェクトとして河川整備を進める国土交通省の工事請負会社が、工事現場発生材等を用いてサイクルスタンドを製作し、常総市役所に寄贈して頂いた。これを河川基金を用い広報ツールとして作成したのぼり旗とともに貸出している。

今後、サイクリングマップを作成して位置情報として情報発信していく予定。



だんご「春子屋」



「一人娘」の蔵元「野村酒造」



「常総やきそば」



市営「あすなろの里」



工事業者から市役所へスタンド寄贈
写真全面は神達市長

活動状況報告

実施内容

交流人口の拡大の取組み支援・広報を含む
(サイクリングロードの広報)「プロモーションビデオ製作・HPで広報」

鬼怒川サイクリングロードは、令和元年度に常総市区間から開通して順次延伸していく予定であるため、情報発信が重要。

プロモーションビデオは、サイクリングロード開通前に1本目を作成し、開通後にサイクルスタンド等のツールが整ってから2本目を作成する予定。



写真左上
出演者「常総市観光大使」との打合せ

写真右上・右下
撮影風景 撮影は地上カメラとドローンを用いられたが、撮影からビデオ編集まで市役所職員直営での作業。

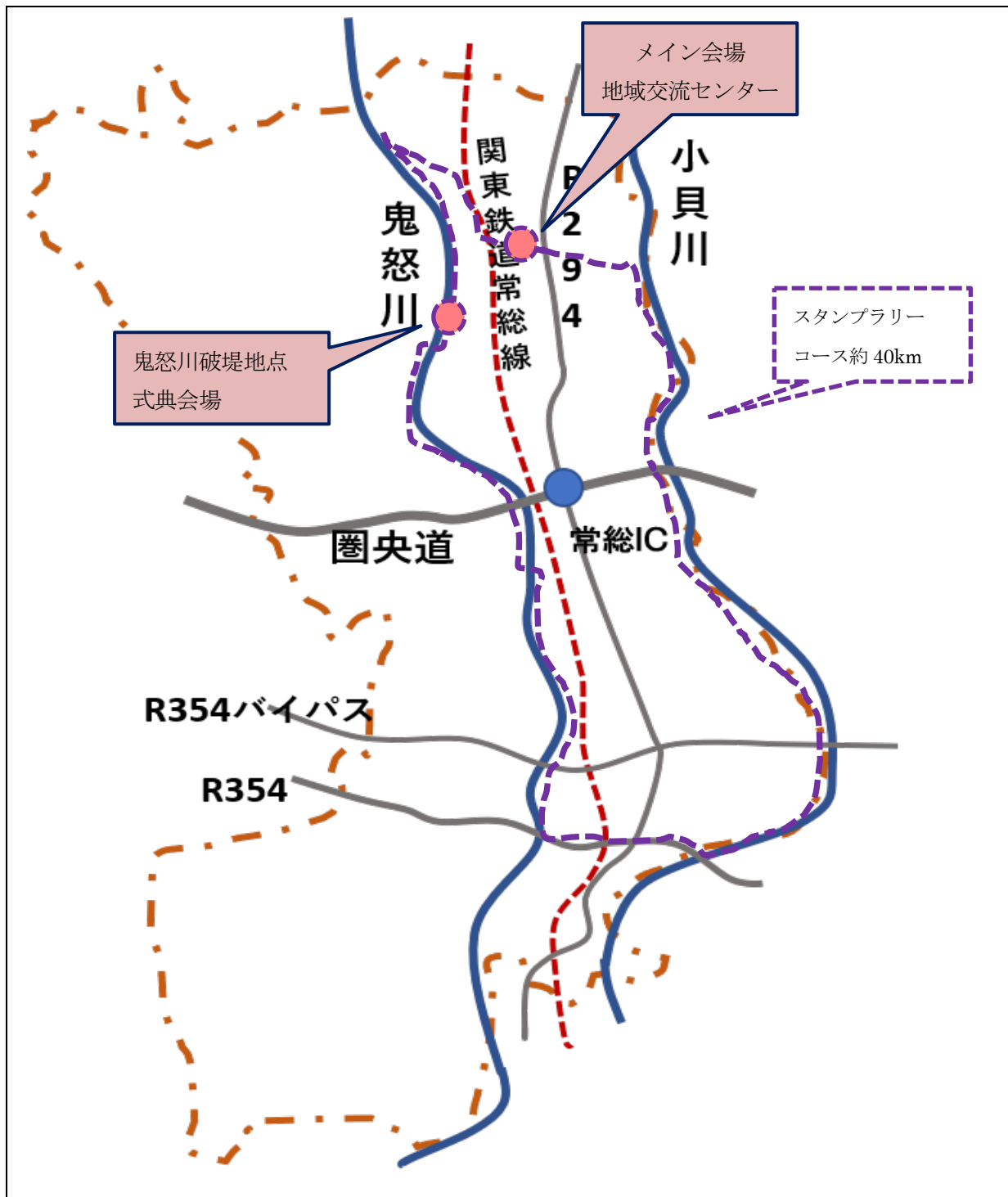


基金及び基金を活用した活動としては、常総市観光大使の日当を基金で支払い、ビデオ制作は市役所職員が直営で実施。

2. 川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2019-6112-020	鬼怒川・小貝川かわまちづくりを効果的に地域振興に活かす活動		常総市都市建設部長 木村茂樹	
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所	鬼怒川・小貝川堤防		
	<p>オープニングイベント「鬼怒川サイクルフェスタ 2019」の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和元年9月23日 ・参加者 鬼怒川・小貝川スタンプラリー参加者 253名（参加予定申込者 269名） ・来賓者 アテネ五輪メダリスト長塚さん、茨城県議会 飯田県議、金子県議、常総警察署長、他 ・協力団体 （一社）日本競輪選手会茨城支部、水海道ロータリークラブ、オンヨネ（株）、地元建設会社の皆様他 ・実施内容 鬼怒川堤防が、常総市区間で概ね繋がったこと、また、堤防上のサイクリングロードの供用開始を記念してイベント（サイクルスタンプラリー）を実施した。当日は台風の影響で風が強かったが、多くの参加者を迎えて事故なく無事開催できた。多くの参加者から好評の声を頂いた。 ・情報発信 サイクリングロード開通とイベントの参加者募集について毎日新聞、読売新聞、茨木新聞に、実施結果を茨木新聞に報道して頂いた。また、参加者の中には自ら SNS で情報を発信する人もいたため、情報発信としては大きな効果があった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>堤防上の国交省イベント</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>市のイベント開会式 メイン会場 地域交流センター</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>実施状況（鬼怒川堤防）</p>  </div> </div>			
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景		近景	
	<p>受付テントと本部テントに河川基金の助成を表示</p> 		<p>「河川基金助成事業の助成を受けています」</p> 	
延べ参加人数	一 般	253人	スタッフ・事務局	約150人
マスコミ等の反響	<p>読売新聞による報道（サイクリストを沿川の街へ誘う取組）2019. 9. 12 茨城新聞による報道（サイクルフェスタ 募集・実施結果）2019, 9, 14、2019. 9. 24 （別紙参考資料のとおり） ケーブルテレビ（JCOM）による報道 2019. 9. 24</p>			



詳細は参考資料の「サイクルフェスタちらし」を参照